
僕の気持ち

菜月 桜花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の気持ち

【著者名】

菜月 桜花

【ISBN】

N9785M

【あらすじ】

毎朝君を迎えて行く。僕らの関係が変わっても、僕はまだ君を迎えて行く。

朝の通学路、君を迎えて行く。あの角を曲がったら君の家、君はいつも玄関の前で待っている。角の手前に自転車を停めて、息を整えながらカーブミラーを覗いて髪を直す。少し高すぎて細かくは見えないけど。

再び自転車を走らせて角を曲がると、君が僕を見つけて笑顔で手を振るのが見えた。君の前に自転車を停めて、荷台に乗りやすいように車体を傾ける。乗り込んだ君が僕のシャツの背中を掴むと、それを合図にゆっくりとペダルを踏み込む。ここまで来るスピードよりかなり遅いペースで自転車を走らせる。

「重いな。太った？」

痛いくらいに鳴り出す心臓の音を隠したくて、意地悪を言つと、怒った君に背中を叩かれた。僕は笑つて謝る。君に触れられた事がとても嬉しいのに。見上げる空はどこまでも高く青く、このまま空へ飛んで行けそうな気がした。

だけど僕にはゴールがあるんだ。僕だけのゴールが。

君は僕の背中で楽しそうにあいつの話を始める。昨日の放課後のこと、昨夜の電話の話。僕は時々茶化したり、笑つたりして話を遮る。その度に背中を叩かれるのが嬉しくて。今だけはあいつの事、考えないで。僕の事だけ見てて。絶対に言えないセリフ。

触れられるくらい君は近くにいるのに、僕らの隙間にはあいつがない。君と同じくらい一緒にいて、君と同じくらい大切なあいつ。僕

の「ゴールはあいつの家。僕の大好きな君が大好きなあいつのこる」
一ル。

幼なじみの三角形が形を変えたのはいつだつたか。僕は君を見つめるようになつて、君があいつを見ている事に気づいたんだ。あいつの気持ちだつてわかりきつて。だから君の背中を押した。君の笑顔が見たくて。

君の幸せそうな泣き笑いを見せられて、おめでとうつて言つたあの日。あいつが照れながらありがとうつて言つたあの日。なんで3人だつたんだろう。2人だつたらこんなに苦しい想いはしなくて良かつたのに。見上げたあの日の空は、僕の代わりに泣き出しそうだった。

最後の角を曲がると、スピードを上げる。君は更にギュッヒシャツを掴む。シャツについたシワは君がここにいた証。一時限田には消えてしまう儚い証。

あいつを見つけて挙げた、僕の手の横から顔を出す君。きっと僕には見せない一番の笑顔をしてるはず。あいつも同じように笑つているから。

あいつの前で君を降ろすと、僕は自転車を少し前に進める。あいつの荷台に乗る君が見えないようだ。あいつの前で重なる君の両手を見てしまつたら、僕はもうここにはいられない。

「お前にはなんでも話すよな」

さつき聞いた話を持ち出してからかう僕に、少し笑つてあいつが言う。僕の想いに気づいていて気づかないフリをしてくれている。そ

れに気づかないフリをしている僕。おそれく何も知らない君。

本当はもう、ここに僕の場所は無いのだろう。あの泣き出しそうな空の日に終わったはずだったのに。それでもまだ、君とあいつのそばにしがみついている。君とあいつの絆を、真っ直ぐに見る事ができるまで。もうしばらへここにこさせで。

僕の自転車の少し後を君を乗せたあいつの自転車。このまま僕だけ空に吸い込まれてしまつたらいいのに。それでもやつぱり僕らは一緒に走る。

離れられれば、きっと楽になれるのに、辛くても一緒にいることを選んだ。君が大好きで、そして君の大好きなあいつのことも好きなんだ。どうしようもないくらい愚かな選択でも、これが今の僕の気持ち。

(後書き)

諦めるには、会わずに忘れる方がいいのか、2人の絆を思い知らされた方がいいのか。
難しいです。どちらも辛いですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9785m/>

僕の気持ち

2010年10月28日08時09分発行